

音楽

「指導者用デジタル教材」を用いた授業展開例

中学校 第2・3学年下 音楽科 学習指導案

元宮城教育大学附属中学校
教諭 山本 薫

題材名 指揮者になろう（他題材との組み合わせたうちの1時間）

**題材（本時）
のねらい**

混声三部合唱曲『ぜんぶ』の指揮をする活動をとおして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気づいたり、感じ取ったりするとともに、『ぜんぶ』の指揮にふさわしい身体表現を創意工夫し、合唱に親しませる。

指導時期 混声合唱の学習に準じる

「指導者用デジタル教材活用」の意図・目的

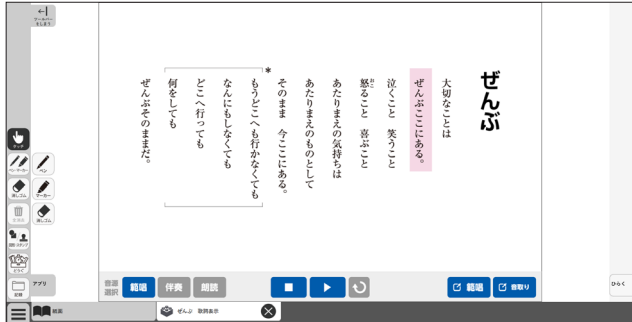
やさしく味わい深い言葉と、じんわりと心を包み込む慈愛に満ちたハーモニーが魅力的な『ぜんぶ』を活用する事例。作曲者本人が指揮者目線で表現のポイントを紹介する、という魅力的な内容の教科書紙面に加え、指導者用および学習者用デジタル教材に動画も収録されている。ここでは、主に「指導者用デジタル教材」を教師が電子黒板等で提示して活用し、指揮を模倣することによって表現の工夫を感じ取る学習活動を提案する。本事例は、混声合唱の導入や中間（数時間扱いの途中）に行う学習活動として位置づける1時間を想定したものであるが、学習活動を発展させて評価場面を配置しながら、単独題材として複数時間扱いにすることも可能である。

中学校における「合唱の指揮者」は、一般的に合唱コンクールの指揮者として選ばれた生徒や教師が担うものである。しかし、代表生徒のみならず、生徒一人一人が「指揮」という立場を経験し、その立場を自分事としていく過程をふむことによって、自分自身の表現の幅を広げたり、指揮者という立場の魅力を感じ取ったりしながら、集団としての合唱表現をより豊かなものとしていくことにつなげたい。

なお、第2学年・第3学年のどちらでも取り組むことが可能である。

本時の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	①「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	②『ぜんぶ』のページを開き、本時の教材曲を伝える。 T：これから『ぜんぶ』という混声三部合唱曲を聴きます。3分くらいの曲です。聴き終わったら、どんな気持ちになったか教えてください。 ③  を再生する。 S：やさしい気持ちになった。 S：あたたかい感じ。 S：「大切なことはぜんぶここにある」という言葉が何回かあって印象に残るね。 ④ 詩について知る。 T：この曲は、『ちびまる子ちゃん』の作者でもあるさくらももこさんの詩でつくられています。読んでみましょうか。 ●  を開き、生徒と朗読したり、朗読音源を聴かせたりしながら詩を味わわせる。 ⑤ 本時の学習活動を伝える。 T：今日はこの曲を歌うのではなくて、みんなで指揮をしてみます。	  
展開	⑥ 目次に戻って「Let's Try! 指揮をしてみよう」のページを開く。 ● 相澤先生を正面から映した動画を表示する。 T：作曲者の相澤先生本人が指揮をしているんだよ。まずは見てみよう。 ● 指揮の模倣をとおして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気づいたり、感じ取ったりさせる。 T：既に、まねしてきている人も何人かいたね。では、右手に焦点を当ててみます。映像に合わせて、右手の動きをまねしてみよう。やりながら何か気づいたことがあったら教えてください。 S：ははじめの方の「笑うこと」のところでなんか動きがあったね。 S：「あたりまえの～」からきっぱりした感じの動きだった。 S：最後は、じんわりと手を握っていたね。 S：盛り上がってきたところは左手も一緒に大きく腕を動かしていたね。 S：左手も気になる。	 ● まずは右手に焦点を当てるが、左手が自然に一緒に動いていてもよい。 ● 生徒の反応を見ながら、途中で映像を止めて気づいたことなどを発言させつつ進めてもよいし、通して見た後に発言させてもよい。 ※前年度までに指揮の学習活動を積み重ねている場合には、⑥の学習過程で二人組をつくって右手担当と左手担当とで分け、まねした後にそれぞれ気づいた点などを共有させるのもよい。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	⑦ 冒頭の拍の示し方に着目させる。 T：みんなここはできたかな？ 『1、2、3』と心のなかで数え、3拍目を右手ではっきりと示して、(優しくたたいて)、ピアノに合図。これ意外と難しいんだよ。 S：あれ、「3」は合わせられたけど…。 S：「2」で動き出しているね。 S：「1」は心の中で数えるんだね。 S：今「1」も合った気がする！	 ● 生徒の反応に合わせて、冒頭から9秒くらいまでを繰り返し再生する。 ● 二人組などで指揮を見合いながら、気づいたことを伝え合って取り組ませるのもよい。
まとめ	⑧ まとめとして、再度全体を通す。 T：それでは、今日のまとめとして曲全体を通して指揮をまねしてみましよう。右手だけでもいいし、両手に挑戦してもいいですよ。終わったら感想を書く時間を取りますね。 ※他パターン T：最後は、合唱の人たちも入った映像に合わせて指揮をしてみましよう。相澤先生のまねをするだけでなく、オリジナルの動きを入れてもいいですよ。	

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られる効果

期待する効果は主に2点である。

1点めは、指揮と音楽表現との関わりを具体的に感じ取ることができることである。動画の活用によって、生徒は指揮者の手や腕の動き、身体全体の使い方、表情などを視覚的に捉えられる。また、歌詞の内容や音楽の変化に応じて指揮がどのように変化しているかを感じ取ることができる。そのため、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて、より実感を伴って理解することが期待できる。

2点めは、生徒一人一人が主体的に学習活動に取り組みやすくなることである。通常の授業では、指揮を経験できる生徒は限られることが多い。しかし、本教材では動画を手本として全員同時に指揮の模倣に取り組むため、指揮経験の有無に関わらず活動に参加しやすい。また、動画を繰り返し視聴したり、一部分を停止したりしながら進めることで、自分なりに気づいたことや感じ取ったことをもとに表現を工夫することができる。歌う側だけでなく指揮者の立場から合唱を捉える視点が生まれ、合唱表現への理解を深めることにつながると期待できる。

このように、デジタル教材を活用することで、生徒が「見る・聴く」「感じる」「まねる」「工夫する」という一連の学習過程を自然に経験でき、合唱表現を多面的に捉える学習を実現することができると考えられる。